



**AGS株式会社**

東証第一部 証券コード3648



**2021年3月期 決算説明会資料**

2021年5月

- I . 会社概要
- II . 2021年3月期業績概要
- III . 2022年3月期見通し
- IV . 2022年3月期取組み
- V . 株式情報

# I . 会社概要

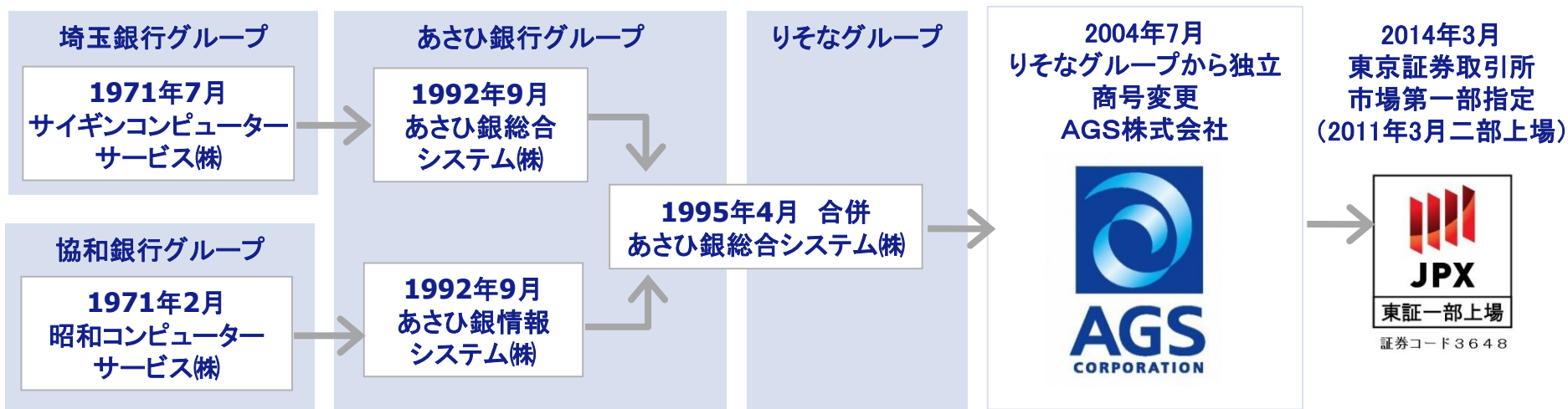
# 1. AGSグループ概要

商号	AGS株式会社	 (本社:AGSビル)	 (さくら浦和ビル)
設立	1971年7月		
資本金	1,431百万円		
従業員数	連結 1,049名 (2021年3月末時点)		
本社	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-3-25		
連結子会社	AGSビジネスコンピューター株式会社 ソフトウェア開発、コンピュータ及びその周辺機器の販売・保守 AGSプロサービス株式会社 コンピュータシステムの運営管理、人材派遣 AGSシステムアドバイザー株式会社 ITコンサルティング、BCMコンサルティング、 情報セキュリティコンサルティング		

## 2. AGS沿革



おかげさまで2021年7月で創業50周年を迎えます。



2003年1月	本社内にインターネットデータセンター「さいたまiDC」を開設
2010年2月	浦和ソリューションセンター開設
2011年3月	東京証券取引所市場第二部に上場
2012年3月	インターネットデータセンター「さいたまiDC」新センターを開設
2014年3月	東京証券取引所市場第一部に指定
2015年11月	東京本社を浦和ソリューションセンターに集約
2021年1月	インターネットデータセンター「さいたまiDC」新フロア増設

### 3. 連結セグメント別売上高構成比

## SIビジネス

#### ■ システム機器販売

- ・コンピューター機器、  
周辺機器の販売

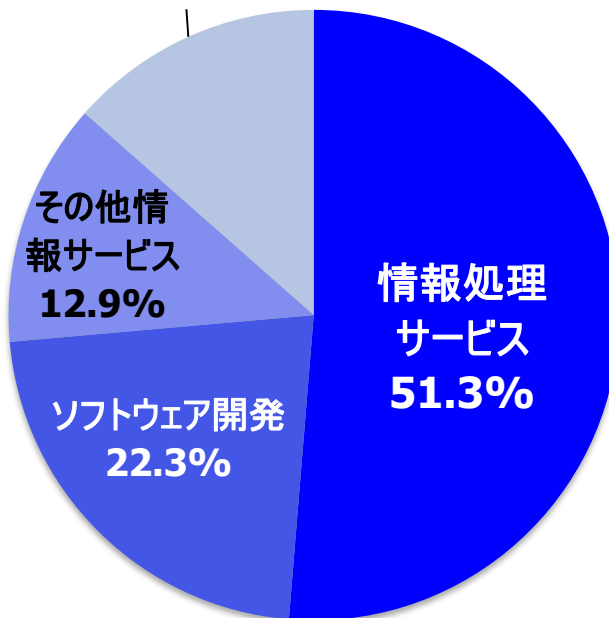
#### ■ その他情報サービス

- ・パッケージ商品販売
- ・導入支援サービス
- ・コンピューター機器保守
- ・情報セキュリティコンサルティング
- ・内部統制支援サービス等

#### ■ ソフトウェア開発

- ・コンサルティング
- ・システム設計、構築
- ・システム保守サポート

システム機器販売  
13.5%



【2021年3月期】

## データセンタービジネス

#### ■ 情報処理サービス

- iDCサービス
  - ・ハウジング、コロケーション、  
ホスティング  
(浦和センター及びさいたまセンター)
- クラウドサービス
  - ・SaaS ・ASP
- アウトソーシング
  - ・コンピューターのオペレーション請負
  - ・オペレータ派遣、BPOサービス
- 受託計算
  - ・データ入力 ・計算処理
  - ・大量印刷 ・封入封緘
  - ・OCR読み取り ・カード発行等

情報処理サービスを中心に総合的なソリューション・サービスをワンストップで展開。

## 4. 連結顧客領域別売上高構成比

### サービス領域

#### データセンタービジネス

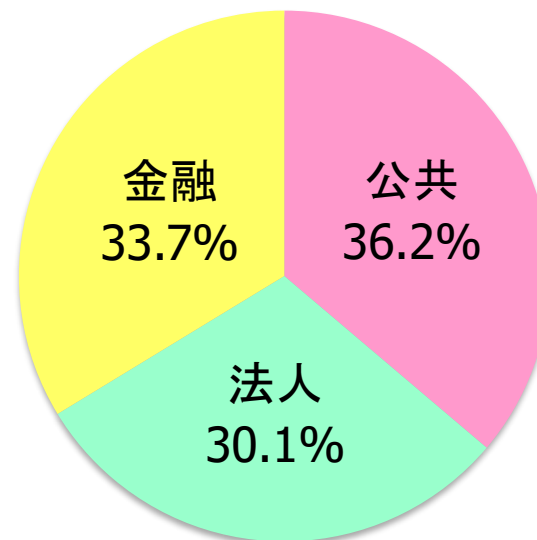
- 先進的、本格的なデータセンター設備と高い運用能力
- 長年の経験、ノウハウ、信頼を基盤とした独自性の高い受託計算サービス



#### SIビジネス

- 金融、国保、共済、自治体等に関わる幅広い専門的な業務ノウハウ
- 高品質なソフトウェア開発能力と顧客志向に基づききめ細やかなサービス

【2021年3月期】



	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期
金融	34.4	35.1	38.4	35.6	33.7
公共	32.3	29.5	29.8	30.8	36.2
法人	33.3	35.4	31.8	33.6	30.1

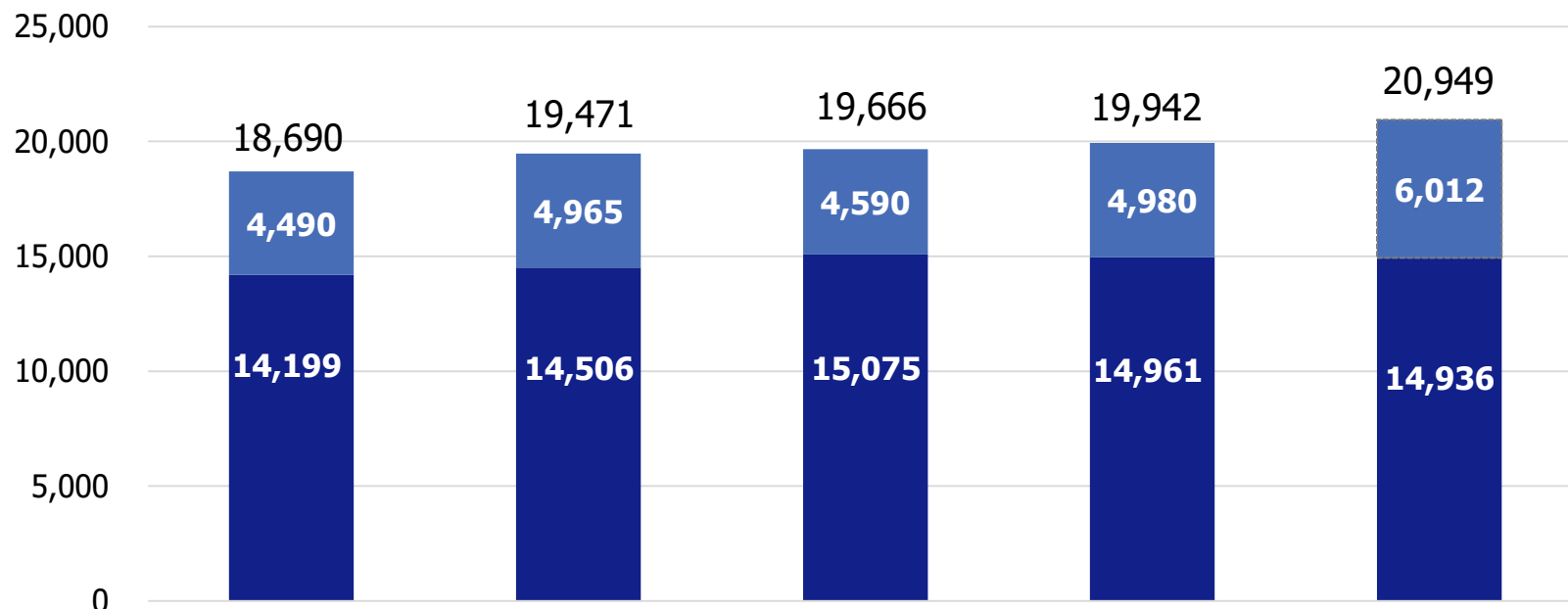
市場環境に柔軟に対応できる  
バランスのとれた顧客ポートフォリオを構成。

## 5. スtockビジネス推移(売上高)

### Stockビジネス推移(売上高)

(単位:百万円)

■ Stock ■ フロー

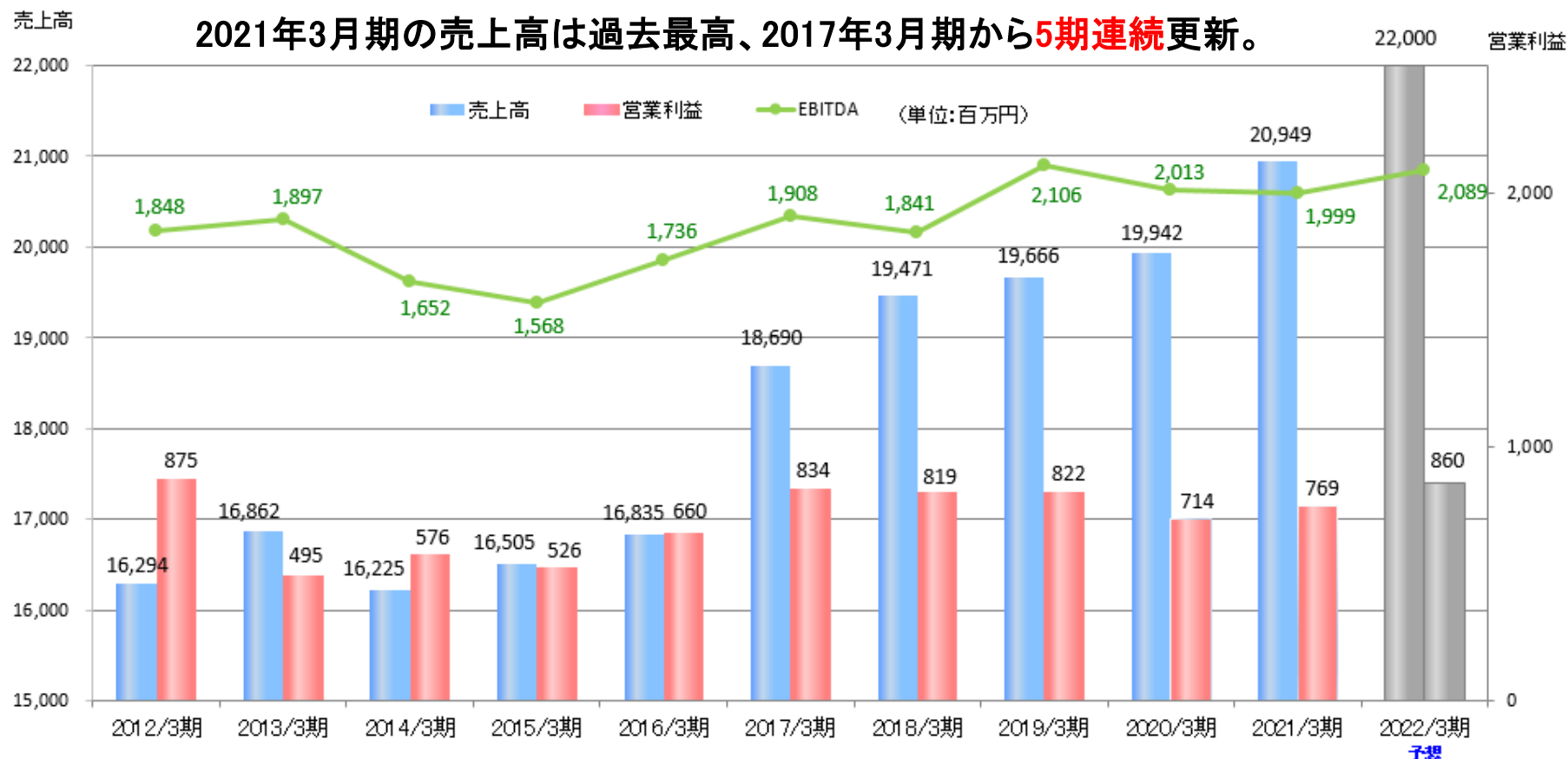


	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
フロー	<b>24.0%</b>	<b>25.5%</b>	<b>23.3%</b>	<b>25.0%</b>	<b>28.7%</b>
Stock	<b>76.0%</b>	<b>74.5%</b>	<b>76.7%</b>	<b>75.0%</b>	<b>71.3%</b>

情報処理サービスを中心に安定したStockビジネスを確保。(約70%)  
同ビジネスを基盤としつつ、さらなる成長に向け、各種のフロービジネスを  
拡大(前年比20.7%増)



## 6. 業績推移(上場以降)



	2012/3期	2013/3期	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期 予想
売上高	16,294	16,862	16,225	16,505	16,835	18,690	19,471	19,666	19,942	20,949	22,000
1人当たり	17.43	18.03	17.08	17.39	18.10	19.97	19.75	19.55	19.47	19.97	-
営業利益	875	495	576	526	660	834	819	822	714	769	860
1人当たり	0.94	0.53	0.61	0.55	0.71	0.89	0.83	0.82	0.70	0.73	-
社員数	935	935	950	949	930	936	986	1,006	1,024	1,049	-
EBITDA	1,848	1,897	1,652	1,568	1,736	1,908	1,841	2,106	2,013	1,999	2,089

※ 「EBITDA」 = 「連結営業利益」 + 「連結減価償却費」

## Ⅱ. 2021年3月期業績概要

# 1. 2021年3月期決算

(単位:百万円)	2020/3期	2021/3期			業績予想修正 (1/29公表)	期初予想 (5/14公表)
	金額	金額	増減	増減率	金額	金額
売上高	19,942	20,949	1,007	5.1%	20,000	18,000 ~20,000
売上総利益	4,336	4,344	8	0.2%	—	—
営業利益	714	769	54	7.7%	720	580~720
営業利益率	3.6%	3.7%	0.1P	—	3.6%	—
経常利益	750	779	29	3.9%	760	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	475	497	21	4.4%	510	—
一株当たり 当期純利益(円)	26.72	27.93	1.21	4.5%	28.66	—
一株当たり配当(円)	11.00	11.00	—	—	11.00	11.00

- 売上高は、ソフトウェア開発が減少した一方、他のセグメントの増収により増加。
- 利益面では、ソフトウェア開発において売上高の減少や利益率の低下などにより減少した一方、情報処理サービス及びその他情報サービスにおける売上高の増加や、新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえた、研修費・旅費交通費・広告宣伝費など、経費の執行見直しにより増益。
- 売上高、営業利益、経常利益は、2021年1月29日に修正した業績予想を上回る結果となった。

## 2. 事業セグメント別売上高、収益状況

(単位:百万円)		2020/3期	2021/3期		
		金額	金額	増減	増減率
情報処理 サービス	売上高	10,445	10,742	297	2.8%
	セグメント利益	1,402	1,657	254	18.1%
ソフトウェア 開発	売上高	5,515	4,673	▲842	▲15.3%
	セグメント利益	751	370	▲380	▲50.6%
その他情報 サービス	売上高	2,254	2,695	441	19.6%
	セグメント利益	290	418	127	43.8%
システム 機器販売	売上高	1,727	2,839	1,111	64.3%
	セグメント利益	15	13	▲2	▲13.2%

- **情報処理サービス** 自治体及び一般法人向けテレワークソリューション導入案件や金融機関向け受託計算サービス案件の増加などにより増収増益。
- **ソフトウェア開発** 金融機関向けソフトウェア開発では、大型案件の開発に着手した一方、プロジェクト終息による常駐開発の規模縮小や一般法人向けソフトウェア開発案件の減少などにより減収減益。
- **その他情報サービス** GIGAスクール構想の実現に向けたネットワーク環境構築や一般法人向けのフィールドサービス案件の増加などにより増収増益。
- **システム機器販売** GIGAスクール構想の実現に向けた機器販売の増加などに増収一方、利益率の低下などにより減益。

### 3. 貸借対照表

(単位:百万円)		2020/3期末	2021/3期末		主要増減要因
		金額	金額	増減	
	流動資産	7,657	9,815	2,158	商品、受取手形及び売掛金、現金及び預金が増加
	固定資産	8,899	9,310	410	投資有価証券の増加
資産合計		16,557	19,125	2,568	
	流動負債	3,018	5,081	2,063	買掛金、未払金等のその他流動負債の増加
	固定負債	1,547	1,540	▲6	
負債合計		4,565	6,622	2,056	
	株主資本	11,580	11,865	284	
純資産合計		11,991	12,503	511	剰余金の配当による減少の一方親会社株主に帰属する当期純利益計上により増加
負債純資産合計		16,557	19,125	2,568	
自己資本比率		72.4%	65.4%	▲7.1P	

## 4. キャッシュ・フロー表

(単位:百万円)	2020/3期	2021/3期	
	金額	金額	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,655	1,747	92
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲624	▲702	▲78
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲704	▲699	4
現金および現金同等物の増減額	327	346	19
現金および現金同等物の期末残高	3,944	4,290	346

	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
営業活動による キャッシュ・フロー	1,438	1,656	1,988	1,655	1,747
投資活動による投資活動 によるキャッシュ・フロー	▲678	▲710	▲1,051	▲624	▲702
フリーキャッシュ・フロー	759	946	936	1,031	1,045

## 5. さいたまiDC さいたまセンター新フロア運用開始

- さいたまiDC さいたまセンター新フロアオープン。(2021年1月30日)  
(サービス提供開始、販促活動継続実施)
- DCハウジングとAWS等とのハイブリッド連携の推進。



グランドオープンした3階の新フロア



オープニングセレモニー

新たにオープンする3階の新フロアでは、最先端の空調ソリューションである「コールドアイルキャッピング」を採用。

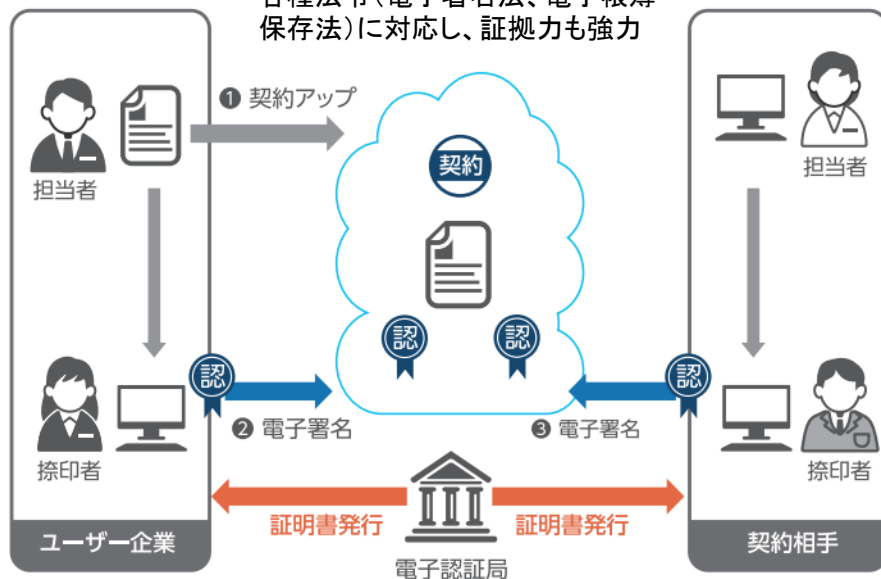
床下空調の冷気の損失低減やラック内への排熱回り込み防止、空調機の消費電力削減など、良好な空調環境を実現。

## 6. 電子契約サービス「WAN-Sign」の提供開始

2021年1月より、株式会社ワンビシアーカイブズ<sup>(※1)</sup>と販売代理店契約を締結し、  
書面契約と電子契約の一元管理が可能となる電子契約サービス「WAN-Sign」  
<sup>(※2)</sup>の提供を開始。

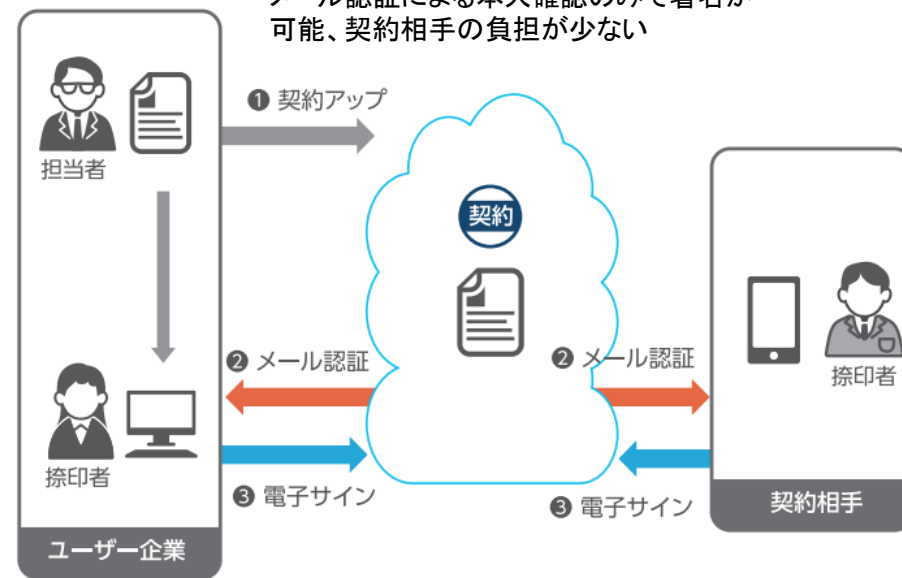
### 実印版 電子証明書で締結

各種法令（電子署名法、電子帳簿保存法）に対応し、証拠力も強力



### 認印版 メール認証で締結

メール認証による本人確認のみで署名が可能、契約相手の負担が少ない



「実印版（電子証明書による締結）」と「認印版（メール認証による締結）」の2種類の締結方法に加え、  
それらを組み合わせた『**ハイブリット締結**』も可能。

※1: 株式会社ワンビシアーカイブズは、日本通運株式会社の子会社であり、情報資産管理のリーディングカンパニーです。

※2: 電子契約サービス「WAN-Sign」は、株式会社ワンビシアーカイブズの提供サービスです。



## 7. 総務省「テレワーク先駆者百選」選出

2021年10月、テレワークにおける様々な取り組みが評価され、総務省主催の「テレワーク先駆者百選」に選定。



対象者	育児・介護などの条件のある社員のみに限らず、全部署の従業員（社員、嘱託社員、シニアスタッフ、スタッフ）を対象 全従業員数の約7割に在宅勤務システムのライセンスを付与。 （業務上在宅勤務が不可能な従業員を除きます。）
テレワーク環境	PCリモート制御サービスにより、自宅PCから会社の自席PCを遠隔操作。 営業担当者にはVDI端末を貸出しており、外出先等からも業務を遂行することが可能。東京都内・埼玉県内の所定の「シェアオフィス」の活用。
コミュニケーション	Web会議システムやチャットツールの他、Microsoft365などのツールを使用し、 常時コミュニケーションを図ることが可能な体制。
労務管理	システムを活用した勤務時間管理、PCログインログアウト履歴確認、勤務間 インターバル時間の確認等による管理により、長時間労働の抑制やサービス 残業を防止。
柔軟な働き方	7時から22時までの間の任意の時間帯勤務が可能。 勤務中の学校行事への参加や通院、親の介護など、私用による中断や半休・ 時間休との併用、休日の在宅勤務を認める。

## Ⅲ. 2022年3月期見通し

# 1. 2022年3月期業績予想

(単位:百万円)	2021/3期 実績	2022/3期 業績予想 (2021/5/13公表)		
	金額	金額	増減	増減率
売上高	20,949	22,000	1,050	5.0%
営業利益	769	860	90	11.8%
営業利益率	3.7%	3.9%	0.2P	—
経常利益	779	870	90	11.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	497	590	92	18.7%
一株当たり当期純利益(円)	27.93	33.19	5.25	18.8%
一株当たり配当金(円)	11.00	13.00	—	—

システム機器販売案件が減少するものの、金融機関向けソフトウェア開発案件の増加、データセンタービジネスの需要拡大に伴いフロアを増床した「さいたま i DC」の販売促進及び自治体向け窓口業務の拡大などにより増収増益見込み。

## 2. 長期経営計画対比

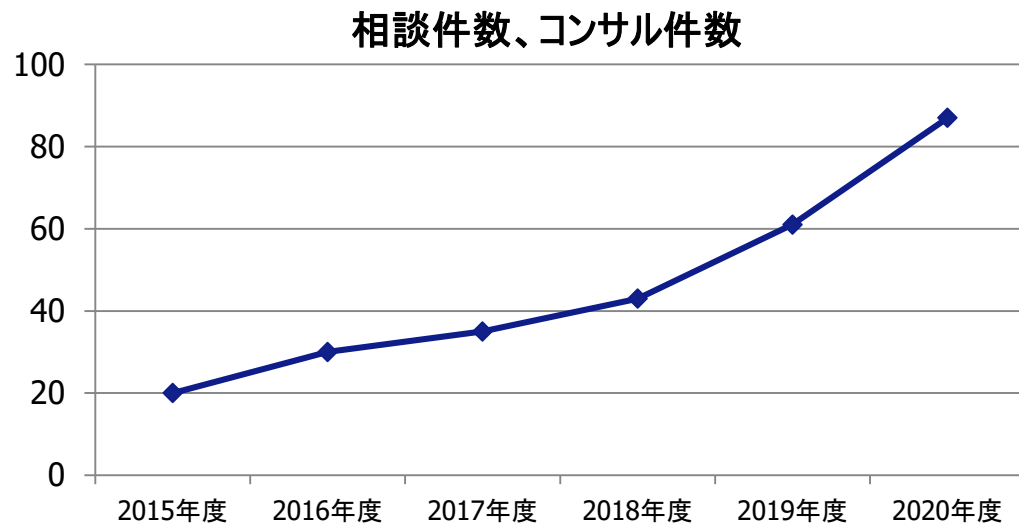
(単位:百万円)	2022/3期 長期経営計画 最終年度 (2017/5/12公表)	2022/3期 業績予想 (2021/5/13公表)		
	金額	金額	増減	増減率
売上高	21,030	22,000	970	4.6%
営業利益	1,050	860	▲190	▲18.1%
営業利益率	5.0%	3.9%	▲1.1P	—
経常利益	1,040	870	▲170	▲16.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	710	590	▲120	▲16.9%

今年度(2021年度)が長期経営計画(2017年度から2021年度まで)の最終年度。  
 売上高は、長期経営計画を達成する見込み。(売上高過去最高を更新)  
 利益面においては長期経営計画を下回る見通しであるが、案件を着実に積み上げ、  
 収益の最大化を図る。

## IV. 2022年3月期取組み

## データセンタービジネスとSIビジネスの双方強化・拡大

- さいたまiDCフロア増床に伴う販売推進ソリューションの拡販推進。
- ITコンサルティングを起点としたソフト開発やインフラ・セキュリティ案件等の受注推進。



### 【主な内容】

- IT総合診断
- システム化計画策定支援
- 基幹システム更改支援(RFPなど)
- 業務分析・改善コンサル
- 大規模災害時対応模擬訓練
- サイバーインシデント対応模擬訓練
- 自治体向けICT-BCP運用支援
- 情報セキュリティコンサル
- 自治体向け情報セキュリティ監査

上流工程であるITコンサルティングを行っている当社の子会社  
(AGSシステムアドバイザー株式会社)への相談件数やコンサル件数は年々増加

## DXへの対応を踏まえた推進体制の強化

- クラウドネイティブ技術等の積極適用、AI・IoTなど先進技術の習得。
- デジタル化・ペーパーレス化ソリューションの拡販推進。



RPA

あらゆるアプリケーション  
操作の自動化が可能  
**WinActor®**

**AA** AI-OCR

紙文書デジタル化  
**DX Suite**



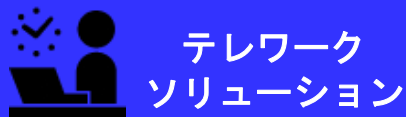
脱ハンコ  
ツール

契約締結から契約書の管理まで  
**電子契約サービス**



ペーパーレス  
ツール

請求書等の帳票をペーパーレス化  
**EasyDelivery**  
給与明細をスマホやパソコンで確認  
**PayBrowser**



テレワーク  
ソリューション

自宅からオフィス環境へ接続  
**リモート接続サービス**



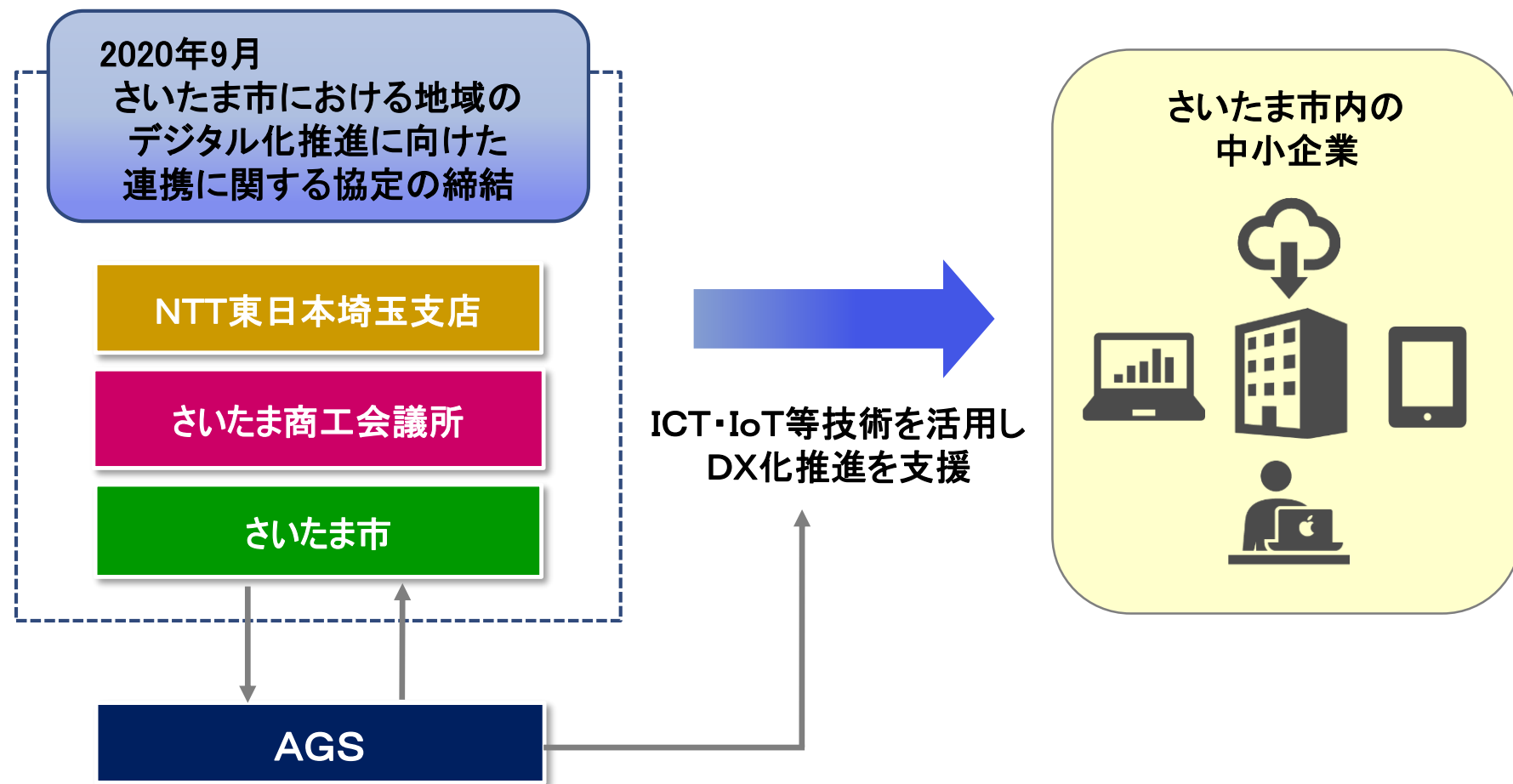
セキュリティ

定期的な訓練の実施に最適な  
SaaS型のメール訓練サービス  
**標的型攻撃メール  
対応訓練サービス**

※WinActor®はNTTアドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。

※「DX Suite」は日本国内における「AI inside株式会社」の登録商標です。

## 2. さいたま市中小企業DX構想策定業務受託



- デジタル化推進に関する計画立案。
- 支援内容(ソフトウェア等の提案、導入支援方法、運用方法、IT人材育成など)の提案。
- 支援体制(コンソーシアム)の提案。



### 3. SDGsへの取組み



AGSグループは、IT事業を通じて社会課題の解決に取り組み、夢のある未来の創造に貢献します。



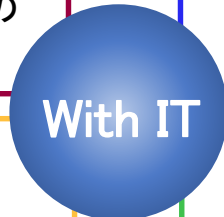
#### 豊かな社会の実現 ～ DXソリューション ～

DXソリューションを通じて、さまざまな課題解決に取り組み、持続可能で豊かな社会の実現に貢献します。



#### 安心・安全な社会の実現 ～ セキュリティソリューション ～

セキュリティソリューションを通じて、情報資産を保護し、安心・安全なデジタル社会の実現に貢献します。



#### 資源の効率的利用 ～ データセンタービジネス ～

データセンタービジネスを通じて、電力の効率的な利用を促進し、CO2排出量の削減に貢献します。



#### 地球環境の保全 ～ ペーパーレス化推進 ～

ペーパーレス化の推進を通じて、森林破壊の抑制に取り組み、地球温暖化や大気・水質汚染の防止に貢献します。

地域社会への貢献

組織体制の強化・充実

人材の育成

- 2021年4月1日より、新たな人事制度を導入。
- 加速する少子高齢化や日本特有の年功賃金・終身雇用に対する若手社員の意識の変化やDXに代表されるITビジネスの変革などの外部環境の変化に対応。

### 【新人事制度基本方針】

成長意欲のある社員を育成・後押しする制度、また自分に合った働き方、キャリアパスを自ら選択できる制度とし、チャレンジ意欲・成長意欲を高く持ち、自律し主体的に行動することで真に貢献している社員を公正に評価し処遇する。

等級制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務遂行の能力を給与基準とする職能制度と、役職や仕事内容を基準とする職務制度を併せ持った制度によりきめ細かい処遇を実現。</li> <li>・プロフェッショナル人材の育成に向けて、専門職コースを導入。</li> </ul>
評価制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間業績への貢献度を評価する「成果評価」と、発揮能力を評価する「能力評価」の2つの評価体系により、短期および中長期的な取り組みの双方を評価。</li> </ul>
報酬制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能力に応じた処遇（基礎給）と役割・職務に応じた処遇（役職給・系列給）により、透明性が高い処遇体系。</li> <li>・社員一人ひとりがキャリアデザインと将来設計を描けるよう、給与テーブルや昇進モデルの開示など、報酬体系を見える化を実施。</li> </ul>
能力開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自律的なキャリア形成を行ううえでのマイルストーンとして、会社が求める期待人材像をグレードやコース別に明示。</li> <li>・「社内留学制度」「社内FA制度」「レンタル移籍制度」を導入。</li> </ul>
柔軟な働き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間制度、週休3日制度、在宅勤務制度などにより柔軟な働き方を実現。</li> </ul>

# V. 株式情報

## 過去1年間の株価推移



時価総額	14,633百万
配当利回り	1.34%
PER	29.35倍
PBR	1.17倍

(2021年5月17日現在)

## 株主数推移



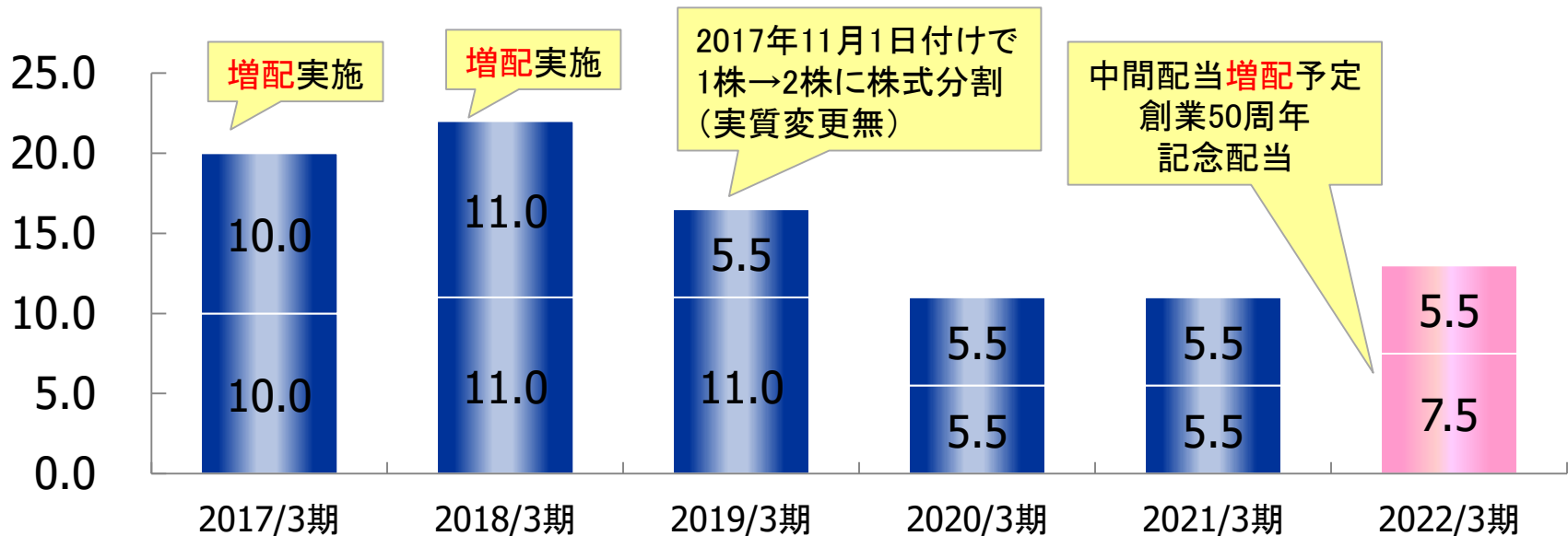
## 2. 配当方針

株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置づけ、経営基盤の強化、今後の事業の拡充、連結業績等を勘案しながら、配当性向30%を目安に、安定した利益配分を行っていくことを基本方針とする。

具体的な配当性向の目安をお示しするとともに、創業50周年を記念し株主の皆様への感謝の意を表するため、中間配当において1株当たり2円00銭の記念配当を実施予定。

中間配当 : 7円50銭(普通配当5円50銭+記念配当2円00銭)

期末配当 : 普通配当5円50銭



### 3. 株主優待制度の変更

- 当社株式への投資魅力を高めるため、現行の株主優待制度を変更。(優待配布基準100株→200株)
- 現行の株主優待制度は、2021年3月31日現在の株主名簿に記載された株主様への贈呈をもって終了し、2021年9月30日時点で新たな基準を満たす株主様から変更後の新制度を適用。

#### <変更後の株主優待制度>

保有株式数	継続保有期間	優待内容
2 単元株(200 株)未満	—	なし
2 単元株 (200 株)以上	1年以上	VJAギフトカード 1,000 円分
		QUOカード 1,000 円分
5 単元株 (500 株)以上	1年以上	VJAギフトカード 2,000 円分
		QUOカード 2,000 円分
	3年以上	VJAギフトカード 3,000 円分
		QUOカード 3,000 円分
10 単元株 (1,000 株)以上	1年以上	VJAギフトカード 3,000 円分
		QUOカード 3,000 円分
	3年以上	VJAギフトカード 5,000 円分
		QUOカード 5,000 円分



優待基準日:3月末日

贈呈時期:6月頃



優待基準日:9月末日

贈呈時期:12月頃

※保有1年以上とは、毎年3月、6月、9月および12月の各末日の当社株主名簿に、同一株主番号で継続して5回以上記載されていることといたします。

※保有3年以上とは、毎年3月、6月、9月および12月の各末日の当社株主名簿に、同一株主番号で継続して13回以上記載されていることといたします。

# Assuring Growth and Success with IT

## 『ITで、確かな成長と成功を』



本資料は、この資料に記載しております将来に関する事項は、業界の動向、顧客の状況、その他本資料作成時点で当社が入手可能な情報による判断及び仮定により作成しております。従いまして、これらに内在する不確定要因や内外の状況変化等により、実際の予想とは異なる場合がありますのでご承知おきください。